

7月

みんなくウィークエンド・サロン

研究者と話そう

■時間 14時30分から15時30分(★7月31日を除く)

■展示観覧料が必要です。

※都合により、予定を変更することがあります。

国立民族学博物館(みんなく)の研究者が来館された皆様の前に登場します!
「研究について」「調査している地域(国)の最新情報」「展示資料について」
などなど、話題や内容は千差万別!
どんどん質問もおよせください。展示場でお待ちしております。

※「どっぷりオセアニア—夏みんなくフォーラム2011」期間中はオセアニアに関するお話を届けます。

3日
(日)

話者: 印東道子(国立民族学博物館 教授)
話題: ココヤシとオセアニアの暮らし
場所: オセアニア展示場

10日
(日)

話者: 須藤健一(国立民族学博物館 館長)
話題: 海の民と船
場所: オセアニア展示場

17日
(日)

話者: 久保正敏(国立民族学博物館 教授)
話題: オーストラリア・アボリジニの世界
場所: オセアニア展示場

24日
(日)

話者: 林勲男(国立民族学博物館 准教授)
話題: 南太平洋の宣教師
場所: オセアニア展示場

31日
(日)

時間: 11時から12時★
話者: 丹羽典生(国立民族学博物館 助教)
話題: オセアニアの天地創造とドラマ
場所: オセアニア展示場

1年間みんなくに何度でも入館できる
「みんなくフリーパス(3,000円)」をご利用ください。

本館展示は何度でも無料で入館できます。他にも、みんなくを楽しむための特典がいっぱいです。

特典◆本館展示の無料入館◆特別展示の観覧料割引

◆みんなくミュージアム・ショップとレストランの10%割引

◆万博記念公園内および周辺施設での利用割引 など。

詳細については、財団法人千里文化財団までお問い合わせください。
(電話06-6877-8893/平日9:00~17:00)

編集後記

開業が大震災翌日ゆえ放映が延期された「九州新幹線全線開業」CM、そこに映る沿線縦断一万人余の笑顔のウェーブから、何かに心を寄せる一体感が伝わる。これでわたしが思い出したのは「災害ユートピア」論だ。

はじめて知ったのは、歴史学者の北原糸子著『地震の社会史』。氏によれば、安政江戸地震後に、生き延びた安堵感や非日常的開放感、救済事業による活況などにより、庶民にかりそめの桃源郷が出現したという。また、米国のノンフィクション作家レベッカ・ソルニットの近著『災害ユートピア(原題はA Paradise Built In Hell)』も、1906年サンフランシスコ大地震から近年の災害までを題材に、日常の格差や制約が崩壊し平等となった被災者のあいだや支援者とのあいだに、相手に寄り添おうとする利他的な共同体が立ち上がる多くの例を紹介している。しかし、非日常は長くは続かず、やがて日常が息を吹き返す。

現実には災害の影響と被災者の苦況は長く続く。せめてわたしたちはそれを忘れず、寄り添う心、共同体意識を何らかの形で明日につなげたいと願う。

今号から編集委員一部が交替し、少し若返ったことを報告申し上げる。(久保正敏)

●表紙: 装身具(頭かざり) 地域 ソロモン諸島 標本番号 H0138435

次号の予告

特集

われらをとりにかこむ海(仮)

月刊みんなく 2011年7月号

第35巻第7号通巻第406号 2011年7月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1

電話 06-6876-2151

発行人 八杉桂穂

編集委員 久保正敏(編集長) 樫永真佐夫 川口幸也
庄司博史 菅瀬晶子 中牧弘允 山中由里子

編集アドバイザー 山内直樹

デザイン 宮谷一欽

制作・協力 財団法人 千里文化財団

印刷 日本写真印刷株式会社

*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係に
お願いします。

*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

交通案内

●大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分

●阪急茨木市駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車、徒歩約15分(茨木方面からは、もっとも近い「自然文化園-日本庭園中央」バス停で下車できるバスが1時間に1本程度あります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください。)

●自家用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある民博専用通行口をお通りください。

●タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてきます。



みんなくホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/>
